

合田邸通信

vol.13
令和7年6月23日

「えじぷとの間」は今、基礎だけが残った状態です。今回その基礎の構造を確認するために基礎の周りを掘削して、基礎構造の確認調査を行いました。

調査の結果、庵治石を用いた礎石の下に構造の強化のため大規模なコンクリート基礎が施されていることが確認できました。またこのコンクリート部分と石の部分にはセメント状の接着剤で固定されているのも確認しました。過去の合田邸通信のなかで上屋における様々な耐震における工夫が成されていることを紹介しましたが、基礎を作る段階からコンクリート基礎に石場建てという基礎構造によって、基礎部分も強固な耐震構造を施していたことが分かりました。

そしてさらにもう一つの事業として5月下旬から6月下旬にかけて合田邸の門扉の改修保全工事を実施しました。以前から合田邸の門扉は板材の釘が抜け、門扉も歪んでいるのか、うまく全開放することができませんでした。

今回は門を取り外し、工場に運び入れ門扉の板材の反りを直し、打ち付ける内部の木材のベースを添え、再度の釘の抜け落ちを抑えました。また反りの解消時に板材を研磨したため、塗料による板材の塗りなおしました。さらに歪んで床に引っ掛かっていた部分を削って、引っ掛かりの部分も解消しました。

昨年度までに主屋や店棟、「えじぷとの間」の保全工事が一旦終了ということになり、徐々に合田邸を公開する機会が増えていく中で、見学者を迎える門扉の改修ができたことによって、公開に際しての見学者の出入りの安全も確保できました。まだまだ公開は不定期ですが、公開の機会にはぜひ見学にお越しください。



「えじぷとの間」基礎構造



門扉の改修作業風景



改修後の門扉

